

# 千葉市 手をつなぐ育成会だより

第178号  
令和8年(2026)3月5日  
千葉市手をつなぐ育成会  
会長 成田 智子  
千葉市稲毛区作草部2-4-5  
でい・さくさべ 2階  
TEL・FAX 043-206-4050  
✉ chibacity-hands@ikusei-kai.jp



「自分らしく生きる～本人主体のせいかつとは?～」研修会 7/14



キャラバン隊「ららら」公演 1/26



70周年記念式典 9/28



せいかつ委員会「話そう会」11/17、27



## 2025年度 育成会の主な活動

第33回 千葉市ゆうあいピック



クリスマス会 12/13



あんしん委員会「災害への備えハンドブック」勉強会 9/7、11/2



子ども委員会 施設見学  
みらい工房 6/27



研修部 施設見学  
父の樹会 10/23

「自分らしく生きる～本人主体のせいかつとは?～」研修会 7/14

「ららら」は、障害児の親とコミュニケーション支援活動をすすめる人とで結成されました。疑似体験を通して、知的・自閉症の人たちは、こんな気持ちでいるのかと知る。そして、彼女らを見る社会の目がやさしくなるよう、活動と活動をされています。市内各所で公演を行い、小学校でも福祉講話を行なっています。

「ららら」は、障害児の親とコミュニケーション支援活動をすすめる人とで結成されました。疑似体験を通して、知的・自閉症の人たちは、こんな気持ちでいるのかと知る。そして、彼女らを見る社会の目がやさしくなるよう、活動と活動をされています。市内各所で公演を行い、小学校でも福祉講話を行なっています。



(広報部 西村)

軍手を2枚はめた手で鶴を折る。「早く早く」「もつときれいに」とせかされる。物の見方に特徴を持つていられるかもしれないのに、気づいてもらえず、できないことを叱られる。何を求められているかわからないのに、相手の怒りが増していったらどんな気持ちになるかなどを体験。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

「もつと早くから公演を体験していただければよかった」「障害のある方の過ごし辛さを感じる事ができた」「色々な人が社会にいる事を思っって『相手を知る』事を大切にしたいと思いました。」など感想が寄せられました。

キャラバン隊「ららら」の皆さんの活動が、多様性を認め合い、共に生きる社会の実現へと繋がっていくと感じました。

## キャラバン隊「ららら」公演

地域で暮らす  
啓発活動

1月26日(火)でい・さくさべ2階で、キャラバン隊「ららら」の公演を行いました。参加者は会員のほかに、地域の民生委員さん、法人育成会から支援者4名の計33名でした。

「ららら」は、障害児の親とコミュニケーション支援活動をすすめる人とで結成されました。疑似体験を通して、知的・自閉症の人たちは、こんな気持ちでいるのかと知る。そして、彼女らを見る社会の目がやさしくなるよう、活動と活動をされています。市内各所で公演を行い、小学校でも福祉講話を行なっています。

## 千葉市障害者基幹相談支援センター

- 中央区障害者基幹相談支援センター  
電話043-445-7733
- 稲毛区障害者基幹相談支援センター  
電話043-254-0671
- 緑区障害者基幹相談支援センター  
電話043-312-4891
- 花見川区障害者基幹相談支援センター  
電話043-306-8293
- 若葉区障害者基幹相談支援センター  
電話043-312-2853
- 美浜区障害者基幹相談支援センター  
電話043-307-5122

この広報紙は「赤い羽根共同募金」の助成により発行されています。

◆学校の同窓会で二十歳を祝う会がありました。学校時代に踊ったダンスをお友達と一緒に踊っている息子の姿を見て、あの頃が懐かしく思い出されました。これからの人生で、困難なこともあると思いますが、この思い出を糧にして、頑張っていって欲しいと願いました。  
(副会長 御代)

◆中学部二年生の息子がいます。昨年から登校拒否に加え、私の体調も悪化。送迎が出来なくなりヘルパーさんに来ていただけることに。最初は週一回短時間の散歩から。息子と相性がいいんだと嬉しいなあと思っています。  
(広報部 宮本)



「りんごの家」の発表



「チーム☆利ゑ蔵」のよさこいソーラン

昨年12月13日(土)千葉公園総合体育館Yohasアリーナでクリスマス大会が開催されました。  
今回は、幕張衛生病院発達外来の井出先生が主催している、障害のある人たちのためのエアロビクス教室「りんごの家」が出演を依頼され、総勢60名が参加して日頃の活動の成果を披露しました。運動不足解消のため、毎週日曜日に療育センターの体育室などで体を動かしていますが、最近本人だけでなく、健康のためと称して60〜70歳の父母も参加しています。広いアリーナに驚きながら、会場のみなさんと一緒に楽しく発表することができました。メンバーの半分は育成会の会員でもありますが、それ以外のメンバーも出演終了後は緊張もほぐれて、それぞれお菓子取り競争やゲームに楽しく参加していました。

そして楽しみにしていた「チーム利ゑ蔵」の発表は、切れのある踊りや衣装の早変わり、天井まで届きそうな大旗の演技など、今年も素晴らしいパフォーマンスに圧倒されました。植草学園大学のチアダンスサークル「ウェルフェアーズ」ポンポンを借りて一緒にみんなで踊りました。このような機会をいただけて、みんな素敵なクリスマスの一日を楽しく過ごすことができました。今年も、フライングディスクやボッチャ競技、箱積み競争やバルーンアートなど、参加者が飽きないように工夫して準備してくださった育成会の理事やボランティアの皆様、法人育成会の職員の皆様に感謝です。  
(顧問 島田)

## 育成会のうごき 11月~2月

- 11月2日 「災害への備えハンドブック」勉強会
- 8、9日 第10回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会東京大会(P.3)
- 17、27日 第12回話そう会(P.2)
- 29日 ふれあいの家利用団体との意見交換会
- 28日、12月2、3、5、8、15日 各区おしゃべり会
- 12月2日 千葉市バリアフリー基本構想推進協議会  
第34回さわやか芸能発表会
- 6日 第27回千葉市障害者福祉大会
- 12日 千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会  
クリスマス会(P.4)
- 13日 千葉市社会福祉協議会令和7年度第2回評議員会
- 1月7日 千葉市4団体意見交換会
- 14日 関東甲信越ブロック代表者会議
- 26日 キャラバン隊「ららら」公演(P.1)
- 27日 千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会研修会
- 29日 千葉市障害者団体親の会意見交換会
- 31日 令和7年度千葉県福祉関係団体連絡協議会  
令和7年度成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワーク協議会(オンライン)
- 2月4日 市立養護学校評議員会
- 12日 千葉大学教育学部附属特別支援学校第53回公開研究会
- 13日 コミュニケーション支援ボード研修会
- 20日 千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会
- 26日 千葉市障害者社会参加推進協議会
- 9、16、20、24、25日、3月3日 各区おしゃべり会

## どうしてですか 本人のお金の使い方 令和7年度話そう会

【就労・就労支援型の事業所に通って  
いて、ひとりでお金を使う事がある  
ご本人の保護者向け】

【去年11月17日(月) 参加者18名  
最初にお話しいただいた3名のお  
母さんのお話で共通していたのが、  
学齢期からお小遣い帳や日記をつけ  
るのを毎日の習慣にしているとい  
う事でした。また、きょうだいとい  
つたりや姪に自分で働いて得たお金で、  
プレゼントを贈る事に喜びを感じて  
いるようだという、楽しいお話も伺  
う事ができました。

【お出かけや買い物時の限度額の  
決め方や、スマホの使い方、交通系  
ICカードの  
チャージ額等、  
本人がお金を  
使う機会があ  
るからその、  
課題について、  
意見や情報の  
交換が活発に  
行われました。



【主な収入が年金で、ひとりではお金を  
使う事が難しいご本人の保護者向け】  
昨年11月27日(木) 参加者20名  
ご本人が50代のお母さん2名と、  
40代のお母さん1名のお話を最初に  
伺いました。

【話そう会を終えて】  
「お金の使い方」と  
いうテーマを話し合う  
事で、「大人として、  
どうすれば、本人の意  
思を尊重し、社会の中  
で、その人らしく暮らしていく事が  
出来るのか？」という事を考えるこ  
とが出来ました。世代の違う会員同  
士が同じテーマについて話し合い、  
気持ちや情報を共有できる「話そう  
会」は、育成会ならではの活動だと  
感じました。(せいかつ委員会 梶川)



## ともに生きる 社会を目指して

第10回 全国手をつなぐ育成会連合会  
全国大会東京大会

昨年11月8・9日に第10回全国手をつなぐ育成会連合会、全国大会東京大会が日本工学院アリーナにて開催され三千人規模の大会になりました。

◆記念式典  
佳子内親王殿下のご臨席を仰ぎ「知的障害に対する理解がさらに広がり、一人ひとりが大切にされ、すべての人が安心して暮らすことのできる社会になることを願っています。」とおことばを述べられました。多数の来賓のもと、「育成会大会宣言決議、本人大会宣言決議」が読み上げられました。

◆記念講演 和島監督×野澤氏  
映画「梅切らぬバカ」の制作秘話、映画の背景、ストーリーに込めた想い、ともに生きる、映画の梅の木のように。この先の暮らしなどの語り合いにとても感銘を受けました。



## 施設見学 くまの樹会

昨年10月23日(木) 社会福祉法人、父の樹会さんへの見学会を行いました。参加者は22名でした。  
あけぼの園、おおぞら園、父の樹園、グループホームを二グループに分かれて見学させていただきました。笑顔のお手振りでお出迎えくださった利用者さん、にこやかに作業される利用者さん、真剣に手を動かして作業される利用者さんの姿から、各事業所で充実した日々を送られていることが感じられました。また各事業所では担当の職員の方から、作業内容や日中活動について丁寧に説明していただきました。介護サービス包括型のグループホームも二棟見学させていただき、利用者さんの暮らしや支援の工夫、失敗談、失敗に基づき改良点などたくさんのお話を伺いました。



を伺うことが出来ました。またこのグループホームでも課題となっている人材不足に関しては、父の樹会さんでも大きな課題となっているようです。  
新しく出来る日中サービス支援型のグループホームは、男性10名・女性10名の定員に対して、50名もの希望者がいたとのこと。見学参加者からの、送迎の問題、終の棲家になりうるのか、看取りは出来るのか等、親としての心配ごと・質問にも丁寧に答えいただきました。(※現在はグループホームの募集は終了しています)  
理事長の小柴氏からは、「親御さん皆様のご関心が、これからの生活やグループホームにあることに、しっかりと向き合っていかなければならない。」とお言葉がありました。

本人や親の高齢化、介護保険の年齢になった時のことなど、心配は尽きませんが、今回の見学会での学びを生かし、本人の暮らしを見守っていききたいと思います。

挑戦して失敗する姿を、余暇を楽しむ姿を、人に頼る姿を見せる事も子育てのコツ。  
第2分科会「自分らしく、地域で豊かに暮らす」  
(理事 佐久間)

日々の暮らしは「くらし12・しごと8・よか4」(24時間)のバランスで成り立ち、とくに「よか」を本人にあった過ごし方をする事が老齢期の安定につながる。グループホームは自宅でもその人らしい暮らしを叶える場のひとつであり、制度だけでなく寄り添った支援が欠かせない。  
老齢期には「よか」が12時間へと広がるため、この時間を安心して過ごせる環境づくりや、わかりやすい環境・選択肢を整えた意思決定支援が重要となる。その際、求められる支援が「定番配慮」と「個別のマニアック配慮」のどちらに位置づけられるのかを判断し、その人なりの「ノーマル」を守るための配慮を組み立てていくことが大切である。  
第3分科会「シニア世代の暮らし」  
(副会長 藤芳)

知的障害者は、早期に老化の兆候が見られる人達もいる。背景要因としては「体調変化に無自覚」「変化を伝えることが不得意、困難」「将来への予測が困難」等がある。  
健やかでその人らしい高齢期に向けて支援体制の構築、意思決定によるライフデザインの形成、終末期の準備等、長期的に地域で支える仕組みづくりが

必要。  
第4分科会 権利擁護  
大切な人の「いとなみ」を支える実践  
【片桐氏基調講演】経験談、意思決定支援の難しさや支援者の心構えの話。  
【長野県高水福祉会】入所者数を減らし個人のスペースを広くした入所施設や在宅困難の方の預かりを行う強度行動障害対応型「LOHAS」では強度行動障害の方の意思決定支援を可能にすることで地域移行支援を行っている。  
【東京都育成会清瀬育成園】入所施設での意思決定の方法や本人の目標に向けて必要なスキルの習得支援について。  
【東京育成会権利擁護支援センター】権利擁護の一環として日常の金銭管理の支援「預り金等支援」を始め、収支を緩やかに見守り、確認。個々の希望をくみ取ることを心掛けています。  
第5分科会「育成会活動の現状と親の会の新時代 みんなが元気になる秘訣」  
目黒区、浜松市、群馬県の親の会の発表。新規会員を増やす活動や高齢者へのフォロー活動等の紹介。SNSの活用、学校や地域等との連携、発達支援講座、前例にこだわらない自由な発想の無理のない行事、親亡き後を考えるノート作成等。  
その他に千葉市を含む全国の今までの活動の紹介もあり、皆の頑張りを感じ、励まされ、誇らしく、元気になることができました。  
(理事 村井)